Arthur Earl Martell 先生を追悼して

1916 年 10 月 18 日米国 Massachusetts 州 Boston 郊外の Natick に生まれる。1938 年 Worcester Polytechnic Institute 卒業，1941 年 Ph.D. を New York University で取得。同年 Worcester Polytechnic Institute の Instructor，1942 年 Clark University の Assistant Professor，1946 年 Associate Professor，1951 年 Professor，1959～61 年 Department Chairman。1961 年 Illinois Institute of Technology に移り 1966 年まで Chemistry Department の Professor と Chairman を兼ねる。1966 年 Texas A&M University の Chemistry Department Head，Professor として招聘され，1973 年 Distinguished Professor に昇格。1980 年まで Department Head を勤める。1976 年 ACS（アメリカ化学会）Southwest Regional Award，1980 年 ACS Award for Distinguished Service in the Advancement of Inorganic Chemistry，さらに Patterson-Crane Award などを受賞。New York Academy of Science の終身名誉フェローと日本分析化学会の名誉会員など。

Martell 教授は去る 2003 年 10 月 15 日に Texas 州 College Station で逝去（せいきょ）された。あと 3 日で 87 歳の誕生日を迎えられるところであった。ここ数年は腎臓（じんぞう）透析を定期的に続けておられたが，まことにあっという間のご他界であった。

Arthur Earl Martell 先生は New York University で Ph.D. を取得された後，直ちに大学での教育・研究の道に入られたが，その教職歴の中で特筆すべきは Texas A&M University の化学教室の再生についての輝かしいご業績である。1960 年代 College Station にある Texas A&M University は，その化学教室を世界有数の存在となすべく再構築を任せることができる人材を探索していたが，Martell 先生の Illinois Institute of Technology での実績が高く評価されて白羽の矢がたてられ，1966 年から Department Head として招聘（しょうへい）された。Martell 先生は御自身の研究を通して Texas A&M University の化学教室の活性化に勤められたのみならず，A. I. Scott（有機化学，特にビタミン B_{12} の化学），F. A. Cotton（金属錯体化学）など多くの世界的化学者を Faculty に加えることができ，世界屈指の化学教室の一つに組み上げることに成功された。今は亡き筒井　稔教授もその中の一人である。当大学の目論みに十二分に応えられたものであり，そのご尽力に心からの敬意を表したい。Martell 先生着任前には化学教室の教員数は 23 名であったのが最初の 10 年間で 60 名までに充実し，大学院学生の入学者数も大幅に増加している。Martell 先生がお亡くなりになる以前に，既に化学教室の正面玄関に先生のレリーフが顕示されるとともに，先生のお名を冠した memorial lecture hall が設定され，そのご功績が明らかにされていた。さらに，研究活動の立場から見れば，先生は生涯化学者としての道を貫かれたということができる。

Martell 先生は，水溶液系の金属錯体化学の分野で早くから国際的先駆者として知られており，特に錯体の配位平衡の研究では今は亡き Schwarzenbach, Bjerrum, Sillen などのヨーロッパ学派に対してアメリカを代表する学派の構成者として著名である。IUPAC 主催の国際金属錯体化学会議（International Conference on Coordination Chemistry）では，特別講演者（Plenary Lecturer）の常連であった時代も今は懐かしい思い出となった。また，配位平衡に関して安定度定数のデータの編纂（へんさん）を IUPAC から依頼され，その委員として重責を果たされ，IUPAC からデータ集として出版されている。この仕事は Martell 学派としてその後も続けられ，信頼度の高いデータ集（Critical Stability Constants）5 巻が Plenum Publishing Corporation（New York; 1974～82）から出されている。また，Martell 先生の著書の中で処女作 “Chemistry of the Metal Chelate Compounds”（Prentice Hall; 1952）は，ノーベル化学賞受賞者である Melvin Calvin と共に執筆されたものであり，その当時金属錯体化学の基礎から応用にわたってカバーされている啓蒙（けいもう）度の高いこの分野のはじめての名著として知られている。実際，筆者も入門学徒として繰り返し読んだ思い出がある。研究は，水溶液中での錯体生成平衡のことだけでなく，その広い知見と経験に基づいた新規配位子の分子設計の提案，水溶液中の化学反応の触媒作用，酸素化錯体および酸素運搬錯体の生成など水中の現象のみならず，金属錯体の合成に基づく結晶構造解析と分光学的評価，ピリドキサールの化学など極めて広範囲な分野に及び数多くの研究報文ならびに総説を出されている。さらに近年では，鉄やアルミニウムの過剰疾患に悩む患者を治療するための特異錯体の設計，内臓の腫瘍（しゅよう）を画像化するための試薬の分子設計など，錯体関連の応用分野まで研究領域を広げられていた。

Martell 先生の Clark University 時代には，今は亡き九州大学名誉教授の上野景平氏が日本人としては初めての博士研究員として 2 年近く勤められたが，それに引き続き筆者は大学院学生として 4 年近く教えをいただき，1959 年に帰国した。この時期先生はまだ 40 歳台早々の若さであった。先生が Clark University から転出された後，日本からは村瀬一郎（九州大学名誉教授），松島美一（共立女子大学教授），守口良毅（福岡教育大学名誉教授）などの諸賢が博士研究員として在籍している。日本からの学徒も多数お世話になっており，さらに先生は来日も数度に及ぶ親日家でもある。

Massachusetts の田舎のご出身のこともあってか庭いじりなど土に親しむこともお好きで，Texas では小松の小型トラクターを所有しておられた。また愛飲家としても知られており，先生の特別なレシピーによるウオッカマテーニのお相伴にあずかったのも今は懐かしい思い出となった。New England 育ちのためスキーも特技とされていたことはよく知られており，Texas 時代のまだもう少しお若い時にはロッキー山脈まで出かけられたこともあったと聞いている。最初のご結婚では 6 人の子供さんに恵まれ，再婚されてから 2 人のお嬢さんを得られている。

多くの教えを受けた恩師であり，化学界の巨星として知られていた Martell 先生を失ったのは誠に痛恨の極みであるが，在りし日の恩情溢（あふ）れるお姿を思い浮かべつつ御冥福（めいふく）をお祈りしたい。

〔九州大学名誉教授　**村上幸人**〕